

詔書

朕神聖ナル祖宗ノ洪範ヲ紹キ光輝
アル國史ノ成跡ニ鑑ミ皇考中興ノ宏
謨ヲ繼承シテ肯テ愆ヲサラムコトヲ庶幾
シ夙夜兢業トシテ治ヲ圖リ幸ニ祖宗ノ
神祐ト國民ノ協力トニ賴リ世界空前ノ
大戦ニ處シテ尚克ク小康ヲ保ツヲ得タ
リ
爰テ圖ラム九月一日ノ激震ハ事咄嗟ニ
起リ其ノ震動極メテ峻烈ニシテ家屋
ノ潰倒男女ノ慘死幾萬ナルヲ知ラズ刺

火災四方ニ起リテ炎燄天ニ冲リ京濱
其ノ他ノ市邑一夜ニシテ焦土ト化ス埃ノ
間交通機關杜絶シ為ニ流言飛
語威ニ傳リ人心洶カトシテ倍ニ其ノ慘
害ヲ大ナラシム之ヲ安改當時ノ震災ニ較
フレハ寧リコ凄愴ナルヲ想知セシム
朕深ク自ニ戒慎シテ已マサルモ推テ天
災地變ハ人力ヲ以テ豫防シ難ク只速
ニ人事ヲ盡シテ民心ヲ安定スルハ一途
ノミ九ノ非常ノ秋ニ際シテハ非常ノ果

斷ナカルハ方ラス若シ夫レ平時ノ條規ニ膠
柱シテ活用スルコトヲ悟ラス緩急其ノ宜
ヲ失シテ善後ヲ誤リ或ハ個人若ハ一
會社ノ利益保障ノ為ニ多衆災民
ノ安固ヲ脅スカ如キアラハ人心動搖シテ
抵止スル所ヲ知ラス朕深ク之ヲ憂惕
シ既ニ在朝有司ニ命シ臨機救濟ノ
道ヲ講セシメ先ツ焦眉ノ急ヲ拯クテ
以テ惠撫慈養ノ實ヲ舉ゲケムト欲ス
抑モ東京ハ帝國ノ首都ニシテ政治經

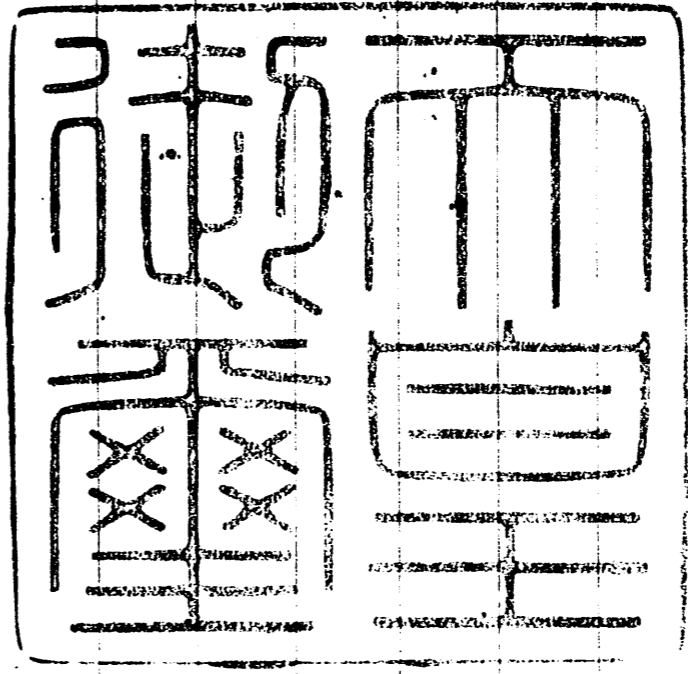
濟ノ樞軸ナリ國民文化ノ源泉トナリテ民衆一般ノ瞻仰スル所ナリ一朝不慮ノ災害ニ罹リテ今マ其ノ舊形ヲ留メスト雖依然トシテ我國都タル地位ヲ失ハス是ヲ以テ其ノ善後策ハ獨リ舊態ヲ回復スルニ止ラズ進ニテ將來ノ發展ヲ圖リ以テ巷衢ノ面目ヲ新ニセサルヘカラス惟フニ我忠良ナル國民ハ義勇奉公朕ト共ニ其ノ慶ニ頼ラハコトヲ切望スベシ之ヲ慮リテ朕ハ宰臣ニ命シ速ニ特殊ノ機關

ヲ設定シテ帝都復興ノ事ヲ審議調査セシメ其ノ成案ハ或ハ之ヲ至高顧問ノ府ニ諮ヒ或ハ之ヲ立法ノ府ニ謀リ籌畫經營萬遺算ナキヲ期セムトス

在朝有司能ク朕カ心ヲ心トシ迅ニ災民ノ救護ニ從事シ嚴ニ流言ヲ禁遏シ民心ヲ安定シ一般國民亦能ク政府ノ施設ヲ翼ケテ奉公ノ誠悃ヲ效シ以テ興國ノ基ヲ固ムヘシ朕前古無比ノ天殃

際會ニテ郵民ノ心愈ニ切ニ寢食為
 ニ安カラズ爾臣民其レ克ク朕カ意ヲ體
 七ヨ

嘉 裕 仁



大正十二年九月十二日



内閣總理大臣兼伯爵	内務大臣子爵	文部大臣	海軍大臣	陸軍大臣男爵	農商務大臣男爵	逓信大臣	司法大臣	鐵道大臣	大藏大臣
山本權兵衛	後藤新平	岡野敬次郎	財部新	田中義一	田健治郎	犬養毅	平沼騏一郎	山之内一	井上準之